

矢祭町子ども司書になる君たちへ

人が一冊の本も読むこともなく、本を読んで感動したり涙を流したりすることもなく、大人になってしまったら、その人の人生は心に潤うるわのない、ただ仕事しごとに追われるだけの単調たんちょうな毎日まいにちを過ごすだけで終わってしまうでしょう。

しかし、本を読んで登場人物の心の持ち方や生き方に感動する経験けいけんを積み重ねていくと、君はそういう感動する人物に出会であった数だけ、何人もの人生を送るにも等ひとしい心の豊ゆたかな人生を味わうことになるのです。

本が私たちに与えてくれるものは、子ども時代じだいや青春時代せいしゅんじだいの一日一日を潤うるわいのある楽しいものにしてくれるだけではありません。やがて大人になり年をとってから振り返ると、本の中のすばらしい言葉や心を引かれた人物の生き方から、自分がいかに影響えいきょうを受けていたかということに気づくでしょう。本に親しむ習慣しゅうかんをつけることは、一生の心の財産ざいさんを作るに等しいことなのです。

君たちは、これから一年間、子ども司書ししょとして、いろいろな本があること、それらの分類ぶんるいの仕方、図書館の仕事しごとのこと、いろいろな図書館があることなど、たくさんのことを学ぶわけですが、その経験けいけんは必ず、自分が本を選んだり、知らなかった本の世界の広さを知ったり、社会しゃかいで起おきている出来事を理解したりするうえで、大きく役に立つでしょう。そして、子ども司書として学んだことを、友達にも教えてあげよう。

今日が、そのスタートの日です。君たちの成長を期待しています。

平成二十四年六月九日

作家 柳田 邦男